

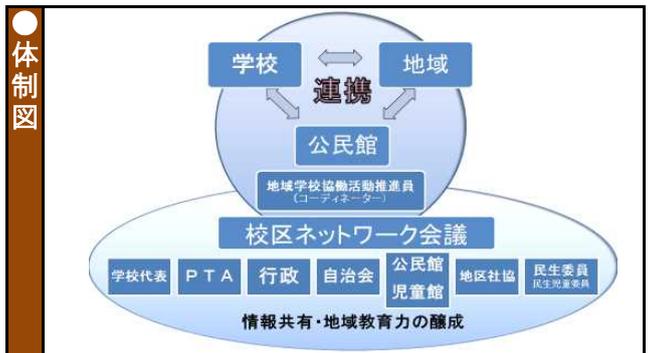
こんな活動です

地域の未来は自分たちの手で！ — 学校と地域の連携・協働でたくましく育つ子どもたち —

大分県佐伯市	●活動名	●関係する学校名
	鶴谷中学校区ネットワーク会議	佐伯市立鶴谷中学校 佐伯市立佐伯小学校 佐伯市立佐伯東小学校 佐伯市立渡町台小学校

協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	4 校	のべ学級数	62 学級	のべ児童・生徒数	1610 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—	—	—	—	—
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	—	—	—	—
—	1人	—	1人	—	—	—	—
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無	—	—
—	平成30年4月1日設置	—	2364人	—	—	—	—
参考URL	http://tyu.oita-ed.jp/saiki/turuva						

●連絡先 佐伯市教育委員会社会教育課生涯学習推進係 ☎ 0972-22-4209



●活動の概要・経緯
本校区では平成20年度から「協育」ネットワーク(学校支援地域本部)による学校支援活動に取り組み、学校の環境整備、子どもたちの学習補助や、地域生活における安全・安心の確保において、ネットワークで結んだ地域人材や住民ボランティアが大きな力を発揮してきた。当初は、地域が学校を支援する一方向の取り組みであったが、次第に地域行事への参加など学校による地域貢献活動も始まり、学校と地域、双方向での支援・協力活動になった。現在は、校区一体型の学校運営協議会が設置され、学校と地域が目標を共有し、目標達成に向け協働する体制が整った。この体制の下、コミュニティ・スクールとなった学校と、地域学校協働本部として活動する「協育」ネットワークが、車の両輪となって地域の子どもたちを育むとともに、地域活性化を図る活動を展開している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ネットワークが結ぶ多様な地域人材による学校支援活動
校区ネットワークを中心として地域の情報共有を図り学校の支援体制を構築。H30年度は2,000人以上の地域住民が、小学校の読み聞かせや中学校の部活動補助、登下校の見守り活動などに参加。
- 学校・地域・行政による放課後子供教室
学校運営協議会における子どもたちの学力についての協議をもとに、市教育委員会の支援のもと、補充学習を中心とした小学生対象の放課後子供教室を運営。
- 地域課題解決に向けた「子どもたちによる地域貢献活動」
総合的な学習の時間において、地域住民の協力により地域課題解決とまちづくりに向けた学習を推進。様々な地域行事に地域学校協働活動推進員のコーディネートによる中学生ボランティア活動を展開している。

【実施に当たっての工夫】

- 公民館におけるコーディネーターによるネットワークづくり
2名のコーディネーターを公民館に配置し、地域ボランティアの募集などネットワークづくりの要としている。
- 校区全体の学校運営協議会の設置と校区ネットワーク会議(地域学校協働本部)の連携・協働
中学校区で一つの学校運営協議会を設置することで、校区ネットワーク会議との連携が密となり、各校区区での協働した活動につながっている。
- 中学校の空き教室をCSルームとして活用し、学校関係者との連携を強化するとともに、校舎内にCS情報掲示板を設置し地域学校協働活動への生徒や地域住民の参画意識を高める工夫をしている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 校区ネットワークにより学校に地域住民が集うことで、住民同士のつながりが強くなっている。また、学校運営協議会での熟議により、子どもたちの教育やまちづくりについて地域住民の当事者意識も生まれている。
- 地域に中学生の活躍の場があることは、ボランティアとして参加する中学生自身に大きな自信を与えている。責任感に満ちて誠実に活動し、自発的に取り組み、最後の片付けまで頑張る中学生の姿は、主催者や参加者に大きな感動を与えている。
- 校区コーディネーターが学校と地域の橋渡し役を担うことは、地域と学校双方の負担軽減や活動の充実につながっている。

● その他

学校を拠点に地域住民同士、また地域の大人と子供がつながり、多くの地域行事が活性化している。



第4回「活躍する中学生1年生あいらい祭り」



H30「活躍する中学生1年生あいらい祭り」